

地域研修感想文（2023/6/1～7/31）

東京慈恵会医科大学附属病院 研修医 2年 中島啓人

私は学生の頃から、研修医の地域研修期間を楽しみにしていました。普段生活しているところとは違う環境で、その地域に密着した医療がどういうものなのか体験できるのは非常に貴重なものであると感じていたからです。地域研修先が新潟県の津南病院と決まった時は、運命を感じました。高校時代の部活の合宿先も、大学時代の東医体の開催地とともに新潟県だったので、人生で何度も新潟県を訪れており、今回選ばれたのも何かの縁だと思い胸が躍りました。

いよいよ津南町に向かう日が来ました。東京から新幹線で越後湯沢まで行き、さらに車で40分山道を抜けた先に津南町がありました。山に囲まれた地域で自然豊かであり、病院や宿舎の目の前には田んぼが広がっており、とても長閑な場所でした。津南町に来てから、誰も知り合いのいない田舎の地で働くことへの不安を感じてきました。そんな不安がありつつも、夕日が照らす田んぼを眺め、2ヵ月間頑張ろうと決心しました。

勤務が始まってみると、やはり慣れないことだらけでした。まず紙カルテを扱うことが人生初であり、システムに慣れるのに少し時間がかかりました。また外来に関しても、これまでの研修生活で経験したことがなかったので、最初は不安と緊張でいっぱいでした。やっていく中で徐々に緊張もほぐれていき、スムーズに患者さんを診れるようになりました。他にも、健骨体操・水中運動・デイサービス等に参加することで津南町の方々と関わることができ、大変貴重な経験となりました。

私の中で一番成長を感じた経験は、病棟患者さんに主治医として関わったことです。主治医として関わるということは、患者さんの検査や治療を考えるのはもちろん、家庭状況や退院後の生活まで考えなければいけないということを理解することが出来ました。特に、退院後施設に入所してもらう場合やお看取りの場合、患者さん本人や家族に対してどのように説明をするかととても考えました。患者さんや家族の気持ちをくみ取った上で、最適策を提案する事の難しさを痛感しました。また、訪問看護・施設訪問・ケアマネ家庭訪問に参加することで、コメディカルの方たちが普段どのような仕事をしているのか理解することができ、患者さんの退院後の生活を考える上でとても役に立ちました。現代の医療においてコメディカルの方々がいかに重要か身を以て経験することが出来ました。

津南町での生活も徐々に慣れていきました。病院の周りに定食屋や居酒屋が多く、歓迎会で連れて行ってもらったり、一人でご飯を食べに行ったりして、お店を開拓していました。どのお店も大変美味しく、開拓し甲斐がありました。また仕事終わりには毎日のように温泉に行っていました。周りに温泉施設が充実しているので、仕事終わりに温泉に浸かるのが毎日の楽しみとなっていました。休日には、清津峡や寺泊など新潟県の観光名所を沢山巡り、新潟県を満喫できたのではないかと思います。

津南まつりにも参加しました。浴衣を着て民謡流しを踊った経験は大変いい思い出です。町全体で盛り上がり、町中の人々が集まるお祭りに参加し、夏らしいことができ嬉しかったです。

今回の地域研修で、津南町の様々な方々と関わりました。津南町の間人でもない私に対し、皆様とても優しく接して下さい、大変感謝しています。初めは知り合いもない田舎の町で生活できるのか不安でしたが、終わりが近づくにつれて寂しさを感じました。自然豊かで人間味あふれる津南町で、いつかまた働けたらと思っています。

最後に、先生方・コメディカルの皆様、未熟な私に沢山教えて頂き、大変有難うございました。津南町での経験を活かして、立派な医師になれるよう精進して参ります。